

## 令和3年度 指定管理者年度評価シート

## 1 基本情報

施設名称	大阪市立長谷川羽曳野学園（児童心理治療施設）
施設所管課・担当	こども青少年局こども家庭課要保護児童グループ
条例上の設置目的	児童福祉法第43条の2に基づき児童心理治療施設を設置するもの
業務の概要	児童養護施設の管理運営及び児童心理治療施設の管理運営
成果指標	①退所児童の家庭復帰後半年間の現況把握率 ②苦情解決第三者委員会による苦情解決率
目標	①100% ②100%
指定管理者名	（社福）みおつくし福祉会
指定期間	平成31年4月1日～令和9年3月31日（8年間）
評価対象期間	令和3年度分

## 2 管理運営の成果・実績

成果指標	①	②
数値目標	100%	100%
年度実績	100%	100%
達成率	100%	100%

## 利用状況（各年度3月1日時点）

	前年度	3年度	前年度比
利用人数	25	36	11
稼働率	62.5%	90.0%	27.5%

## 3 収支状況

収入		3年度	前年度	差異（実績－計画）	主な要因
業務代行料	実績	300,588,707	240,705,445	11,581,707	入所児童数の増による
	計画	289,007,000	287,032,000		
利用料金収入	実績	0	0	0	
	計画	0	0		
その他収入 （自主事業収入）	実績	1,707,416	656,930	1,707,416	寄付金収入の増
	計画	0	0		
合計	実績	302,296,123	241,362,375	13,289,123	入所児童数の増による
	計画	289,007,000	287,032,000		

支出		3年度	前年度	差異（実績－計画）	主な要因
人件費	実績	194,859,273	163,518,273	194,859,273	
	計画				
管理運営費	実績	77,287,277	49,196,610	77,287,277	
	計画				
その他事業費 （自主事業支出）	実績			0	
	計画				
合計	実績	272,146,550	212,714,883	272,146,550	
	計画	0	0		

## 令和3年度 指定管理者年度評価シート

## 4 管理運営状況の評価

## (1) 成果指標の目標達成状況

評価項目	市の評価	特記事項
①	B	自立支援担当職員を配置し、適切に対応されたことにより、目標を達成している。
②	B	苦情解決第三者委員会は2回の定例開催が行われた。苦情件数3件は適切に解決済みである。

## (2) 市費の縮減

市費縮減に係る取組状況	市の評価	特記事項
児童入所施設等措置費の基準に基づき業務代行料を支出しており、市費縮減については不可能	B	

## (3) 管理運営の履行状況

評価項目	市の評価	特記事項
施設の設置目的の達成及びサービス向上		
施設の管理運営	A	施設の老朽化が進んでいるが、日常的な点検整備を欠かさないことで、入所者の安全に配慮されており、予防保全にも十分取り組んでいただいている。 併せて、措置費における加算職員等、処遇向上のための職員加配に積極的に取り組んでいる点は評価できる。
施設の維持管理		
職員の配置状況		
安全管理		
市民サービスの向上	A	平成31年度に直営から指定管理制度へ移行した施設であり、初年度は児童の入所実績も低調であったが、2年度及び3年度も積極的な受け入れを推進し稼働率も向上している。
利用者満足度調査		
サービス向上策の実施		
事業計画の実施状況	B	児童入所施設運営として適切かつ良好である。
事業の実施状況		
施設の有効活用	B	同種別の施設や、同圏域内施設との連携を通じて職員のスキルアップに努めたり新たな情報確保に努めるとともに、地域子ども会への参画など果たすべき役割を担っている。
地域との連携		
他施設との連携		
社会的責任・法令遵守	B	適切かつ良好である。
勤務労働条件の確保		
個人情報保護対策		
環境への配慮		
就職困難者の雇用		

## 5 外部専門家意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>法人からの報告書を拝見すると、着々と支援の質を確立されてきていると思われる。</li> <li>今後も子どもの入所に関して、児童相談所と施設内の子どもたちの様子を情報共有しながら、進めて頂きたいと思う。</li> <li>児童心理治療施設も今後、施設の家庭的養護体制への改革等、将来構想も必要かと思われる。</li> <li>退所児童の現況把握率、苦情解決第三者による苦情解決率が100%となっており、適切に対応している点は評価できる。</li> <li>コロナ禍においても実習生の受け入れに積極的であり、専門職者養成に貢献している点は評価できる。</li> <li>ボランティアの受け入れなどについても積極的に行ってはどうか。</li> </ul>
--

## 6 総合評価

評価項目	評価	所見
成果指標の目標達成	B	目標達成している。
市費の縮減	B	児童入所施設措置費を運営財源としているため、市費縮減は不可能である。
施設の設置目的の達成及びサービスの向上	A	指定管理者制度移行後、施設及び職員が一丸となって積極的な受け入れを継続して推進しているとともに、児童の処遇向上のための職員配置にも取り組んでいる。
施設の管理運営		
市民サービスの向上		
事業計画		
施設の有効活用		
社会的責任・市の施策との整合	B	適切かつ良好である。
総合評価	B	